

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2015 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2016 年 4 月 22 日 提出

1. 研究課題名	
富本憲吉とバーナード・リーチ往復書簡の研究—京都市立芸術大学所蔵資料を中心に (英文標記: Research on Letters Exchanged Between Tomimoto Kenkichi and Bernard Leach: Tomimoto Kenkichi Archive in the Collection of Kyoto City University of Arts)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
森野彰人(もりの あきと)	京都市立芸術大学 美術学部 准教授
3. 研究分担者 (合計: 7名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鈴木禎宏 (すずき さだひろ)	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 准教授
Meghen Jones (メガン ジョーンズ)	Associate Professor, Art History, Alfred University
永楽善五郎 (えいらく ぜんごろう)	京都市立芸術大学 美術学部 美術研究科 特任教授
松尾芳樹 (まつお よしき)	京都市立芸術大学芸術資料館 学芸員
彬子女王 (あきこじょおう)	京都産業大学日本文化研究所専任研究員、立命館大学アート・リサーチセンター 客員協力研究員
前崎信也 (まえざき しんや)	京都女子大学 家政学部生活造形学科 准教授、立命館大学アート・リサーチセンター客員協力研究員
入澤聖明 (いりざわ まさあき)	アサヒビール大山崎山荘美術館 学芸員

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>富本憲吉(1886-1963)は「色絵磁器」で第1回の重要無形文化財保持者に認定され、文化勲章を受章した陶芸家である。京都市立芸術大学の前身である京都市立美術大学において教授・学長も務め、20 世紀を代表する多数の芸術家を育成したことでも知られている。2013 年、京都市立芸術大学は富本憲吉記念館(奈良県安堵町)から富本憲吉関連資料の寄贈(940 件)をうけた。本研究では、同資料中の富本と英国人陶芸家バーナード・リーチ(1887-1979)の間で交わされた書簡のデジタル画像を用い、画像データベースを構築、それをもとに研究を行う。20 世紀の日本と英国を代表する陶芸家のやりとりを翻刻・研究し、画像及び研究成果をデータベース上で公開することにより、日英の美術工芸史に新たな成果・手法を提示する。(324 字)</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究では、京都市立芸術大学所蔵の富本憲吉関連資料を中心に、撮影、文字資料の翻刻、英文資料の翻訳を進めてきた。2015年度は、データベースの内容の拡充を進め、2016年1月に、立命館大学アート・リサーチセンター、及び、京都市立芸術大学芸術資源研究センターのホームページ上で公開を行った。データベースの構築・公開の作業と並行して、本研究ではこれまでに、シンポジウム・研究会の開催、貴重資料の出版作業、未公開の富本憲吉関連資料の調査を行った。

2013年12月1日(日)、京都市立芸術大学主催のシンポジウム『富本憲吉のことば』(会場:京都国立近代美術館講堂)を企画・開催。2015年2月13日(金)に京都市立芸術大学芸術資源研究センターにおいて、本研究プロジェクトのメンバー参加の研究会を行った。これらの研究・発表の成果として、『富本憲吉著 我が陶器造り』の出版に向けた作業を続けてきた。今年度は校正を進め、編集作業はほぼ終了した。2016年上半旬、森野彰人、前崎信也編『富本憲吉著 我が陶器造り』(里文出版)として刊行する。

本書出版に加えて、京都市立芸術大学所蔵富本憲吉関連資料に関する研究書を研究メンバーで2017年度内に出版することを予定している。そのため本年度は未撮影の作品の撮影、新資料の購入、石川県小松市立博物館に所蔵される富本憲吉旧蔵の可能性のあるスケッチブックの調査を行った。

6. 研究業績

(1) 著書

- ・Meghen Jones, "An Orthodoxy of Praxis: Janet Leach and the Ethos of Tamba Ceramics," in Ezra Shales, ed., *O Pioneers! Women Ceramic Artists, 1925-1960*, Alfred Ceramic Art Museum, 2015
- ・前崎信也編『竹×漆「空海と高野山一二〇〇年」田辺小竹・若宮隆志展』高島屋美術部、全34頁、2015年4月

(2) 論文

- ・鈴木禎宏「柳宗悦とバーナード・リーチ 書簡集の監修を終えて」日本民藝協会編『民藝』、第748号、2015年4月号、pp 8-12、査読無
- ・鈴木禎宏『柳宗悦とバーナード・リーチ往復書簡 日本民藝館資料集』人名索引 version1.0』日本民藝協会編『民藝』、第748号、2015年4月号、pp 28-32、査読無
- ・前崎信也「美術展覧会という外交—1935年にロンドン王立芸術院で開催された大中国美術展と日本」、鹿島美術財団編『鹿島美術研究:年報第32号別冊』、pp 415-425、2015年11月、査読有
- ・徳永留美、田口肇、岡崎友紀、前崎信也、篠田博之「白磁の照明光色の違いによる色知覚と印象評価」『日本色彩学会誌 SUPPLEMENT(2015)日本色彩学会第46回全国大会[米沢]'15発表論文集』、pp 122-123、2015年9月、査読有
- ・Shinya Maezaki, "Naturalism in Meiji-period ceramics: Basin with a crab by Miyagawa Kozan I (1842-1916)", *Andon*, vol. 99, pp 33-41, May 2015, 査読有
- ・松尾芳樹「吉田校舎と美工会」京都工芸繊維大学美術工芸資料館・京都市立芸術大学編『"做う"から"創る"へ—京都高等工芸学校・京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅱ』展図録、p. 2、2015年6月、査読無
- ・松尾芳樹「京都市立美術工芸学校と琳派」京都府立堂本印象美術館編『京都画壇にみる琳派のエッセンス—ユーモアとウィット』展図録、pp.13-19、2015年10月、査読無
- ・松尾芳樹「田村宗立の落款印章」『京都市立芸術大学芸術資料館年報』、23号、pp 15-25、2016年3月、査読無

(3) 研究発表等

- ・Meghen Jones, “Tomimoto Kenkichi, Living National Treasure of 1950s Japan,” Midwest Japan Seminar, Niagra University, April 25, 2015, 査読無
- ・Shinya Maezaki, “Japanese Export Porcelain for the Chinese and Korean Market in the Meiji Period”, Histories of Japanese Art and Their Global Contexts – New Directions, Heidelberg University, 22 October 2015, 査読無
- ・徳永留美、田口肇、岡崎友紀、前崎信也、篠田博之「白磁の照明光色の違いによる色知覚と印象評価」、日本色彩学会第46回全国大会[米沢]’15(会場:山形大学米沢キャンパス)、2015年8月31日、査読有
- ・彬子女王・前崎信也「パネルディスカッション:煎茶文化の伝承と発信」、シンポジウム「上町台地の煎茶文化 継承と発信」(会場:登録有形文化財「佃家煎茶室」)、2015年8月31日、査読無
- ・前崎信也「世界と工芸と日本—工芸が伝統文化になる時—」日本工芸会近畿支部研究会(会場:ハートピア京都)2015年7月3日、査読無
- ・前崎信也「素材が失われる時、工芸はどこに行くのか」藝術学関連学会連合第10回公開シンポジウム、2015年6月13日、査読有
- ・松尾芳樹「パネルディスカッション:京都高等工芸学校・京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅱ」、「浅井忠・武田五一と神坂雪佳—京都高等工芸学校・京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅱ」展シンポジウム(会場:京都工芸繊維大学60周年記念館)、2015年6月20日、査読無
- ・松尾芳樹「日本における『美術』コレクションの形成」シンポジウム「図書から参考品へ—美術教育とコレクション」(会場:京都国立近代美術館講堂)、2015年8月8日、査読無
- ・松尾芳樹「日仏文学・美術の交流—トロンコワコレクションとその周辺 その2」日仏文化交流シンポジウム(会場:大手前大学さくら夙川キャンパス)、2015年11月21日、査読無

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ・森野彰人、個展、館・游彩、2015年10月
- ・前崎信也、グーグル・カルチュラル・インスティテュート上にテーマサイト「Made in Japan: 日本の匠」を公開、<https://www.google.com/culturalinstitute/project/made-in-japan>、2016年1月26日
- ・前崎信也、雑誌寄稿、「分野の「壁」を越えたとき作家は何を学んだのか—「融合する工芸」展に見た工芸の新しいカタチ—」『月刊美術』484号、pp 34-35、2015年12月
- ・前崎信也、雑誌寄稿“Tanabe Shouchiku & Wakamiya Takashi” ONBEAT, 4号、pp 26-29、2015年12月
- ・前崎信也、展覧会監修「祝峰窯と清風与平—大掃除と発掘で出てきた品々」(会場:京都陶磁器会館)、2015年8月7日~10日
- ・前崎信也、講演「朝日焼とセントアイブス~100年の時をこえて~」(会場:ちおん舎)、2015年6月28日
- ・前崎信也、ギャラリートーク「空海と高野山 1200年」田辺小竹×若宮隆志(会場:日本橋高島屋)、2015年6月27日
- ・前崎信也、展覧会監修「竹×漆「空海と高野山 1200年」田辺小竹×若宮隆志」(会場:日本橋高島屋)2015年6月24日~30日
- ・前崎信也、展覧会図録寄稿「その手は物語を磨きあげる」、山本茜『截金ガラス』pp 41-42、2015年5月
- ・前崎信也、展覧会監修「竹×漆「空海と高野山 1200年」田辺小竹×若宮隆志」(会場:大阪高島屋)、2015年4月29日~5月5日
- ・松尾芳樹、講演会「土佐家の粉本」大学コンソーシアム京都 京都力養成コース「大学が育んだ京都—大学ミュージアム発の「京都力」」(会場:京都市立芸術大学芸術資料館)、2015年8月22日
- ・松尾芳樹、講演会「京都市立芸術大学所蔵の「粉本」について」アスニー京都学講座(会場:京都市生涯学習総合センター)、2015年8月28日

(6) 受賞学術賞

- ・なし

(7) 科学研究費助成事業

- ・鈴木禎宏、「手応え」に関する越域的学際研究の試み: 対抗産業革命から対抗 ITC 革命に向けて」、挑戦的萌芽研究、2014 年 4 月—2017 年 3 月、役割(代表)
- ・森野彰人、「茶」のトランスフォーム～「関係性の美学」デザイン理論の探求」、基盤研究(C)、2015 年 4 月—2018 年 3 月、役割(代表)
- ・前崎信也、「大正時代における九谷焼の研究」、若手研究(B)、2014 年 4 月—2016 年 3 月、役割(代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他